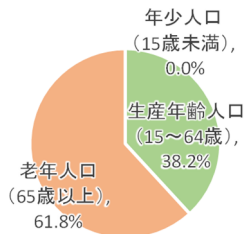


青下 (あおげ)

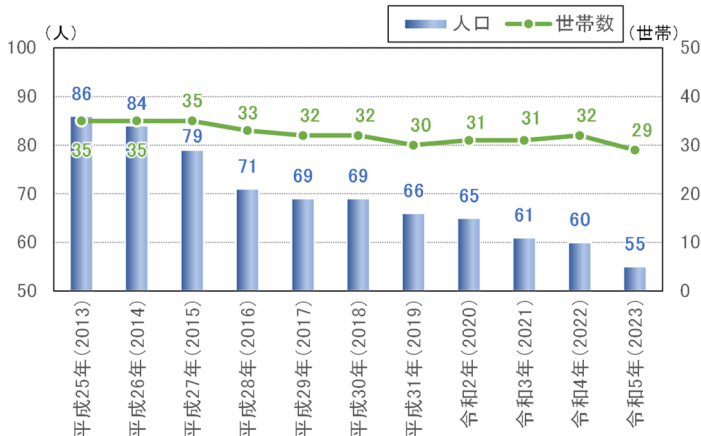
人口・世帯数等 (令和5年4月)

人口	55人
世帯数	29世帯
高齢化率	61.8%

年齢別人口割合



人口・世帯数の推移 (過去10年間)



区域の概要

立地 集落は、東側を流れる岸田川の河岸段丘にできた標高400m以上の高地に位置する。周囲を山に囲まれ、南側には上山高原が広がる。集落の北側を関西電力岸田川発電所の水路が横切り、約4km上流の岸田川及び霧ヶ滝上流の水を集めて、当地の田畑などの用水として使用されている。

地名由来 上山山麓の標高約400mの高位段丘にあり、村の名はこの裏山に生い茂る木立の青の下という景観に始まったと考えられる。しかし、江戸時代の古文書には「黄下」と書いたものもある。「(たじま地名考) 日本海新聞」

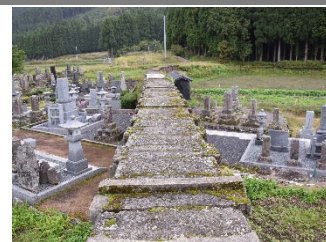
歴史等 永正11年(1514)の『段銭帳』には「きし」「はたわら」「たなか」「あうげ」の村名が記されている。文禄(1592~1596)の村高制施行に際して、戸数最多の「きし」村を中心に「岸田村」となり結束したようである。岸田村は、岸田、田中、畑原、青下、横坂、肥前畑、菅原などの集落を合わせた区域であった。

近世は、青下は岸田村の枝郷であった。岸田村は、天正11年(1853)因幡国鳥取城主宮部氏領、慶長6年(1601)同国若桜藩領、慶長10年(1605)旗本宮城氏知行、寛永20年(1643)幕府領、寛文8年(1668)豊岡藩領、享保11年(1726)からは幕府領となった。青下は、40~80軒からなり、常に岸田村内第二位の大村で諸条件の豊かな地であったため、村役人を決めて村の運営が行われた。「青下千軒園田百軒」といわれるほどであったとも伝わる。青下区として独立したのは、明治25・26年(1892・1893)頃と推定される。

これまで把握している文化財

文化財の件数 26件 (うち指定等文化財 1件)

大分類	中分類	小分類	把握件数	指定等	
有形文化財	建造物	建築物	0	5	0
		石造物	0		0
		工作物・その他の構築物	5		0
	美術工芸品	彫刻	6	10	0
		絵画	0		0
		工芸品	3		1
		書跡・典籍	0		0
		古文書・歴史資料・考古資料	1		0
		音楽	0		0
		演劇	0		0
無形文化財	有形の民俗文化財	信仰の場	1	1	0
		祭具	0		0
		民具	0		0
		その他の有形の民俗文化財	0		0
	無形の民俗文化財	年中行事・民俗芸能	1	4	0
		民俗技術	0		0
		食文化	0		0
		民間説話・俗信	3		0
		その他の無形の民俗文化財	0		0
		散布地・集落跡・生産遺跡	0		0
記念物	遺跡	古墳・その他の墓	0	1	0
		城館跡・寺社跡	0		0
		街道・古道等	1		0
		戦争遺跡	0		0
		その他の遺跡	0		0
	名勝地	山岳・高原・丘陵	0	2	0
		海岸・海浜・島嶼	0		0
		河川・滝・渓谷・湖沼	2		0
		公園・庭園	0		0
		その他の名勝地	0		0
動物・植物・地質鉱物	動物	0	1	0	
	植物	1		0	
文化的景観	生活・生業・風土により形成された景観地	宿場町・城下町・農漁村等	1	0	
		0	0		



青下の水路



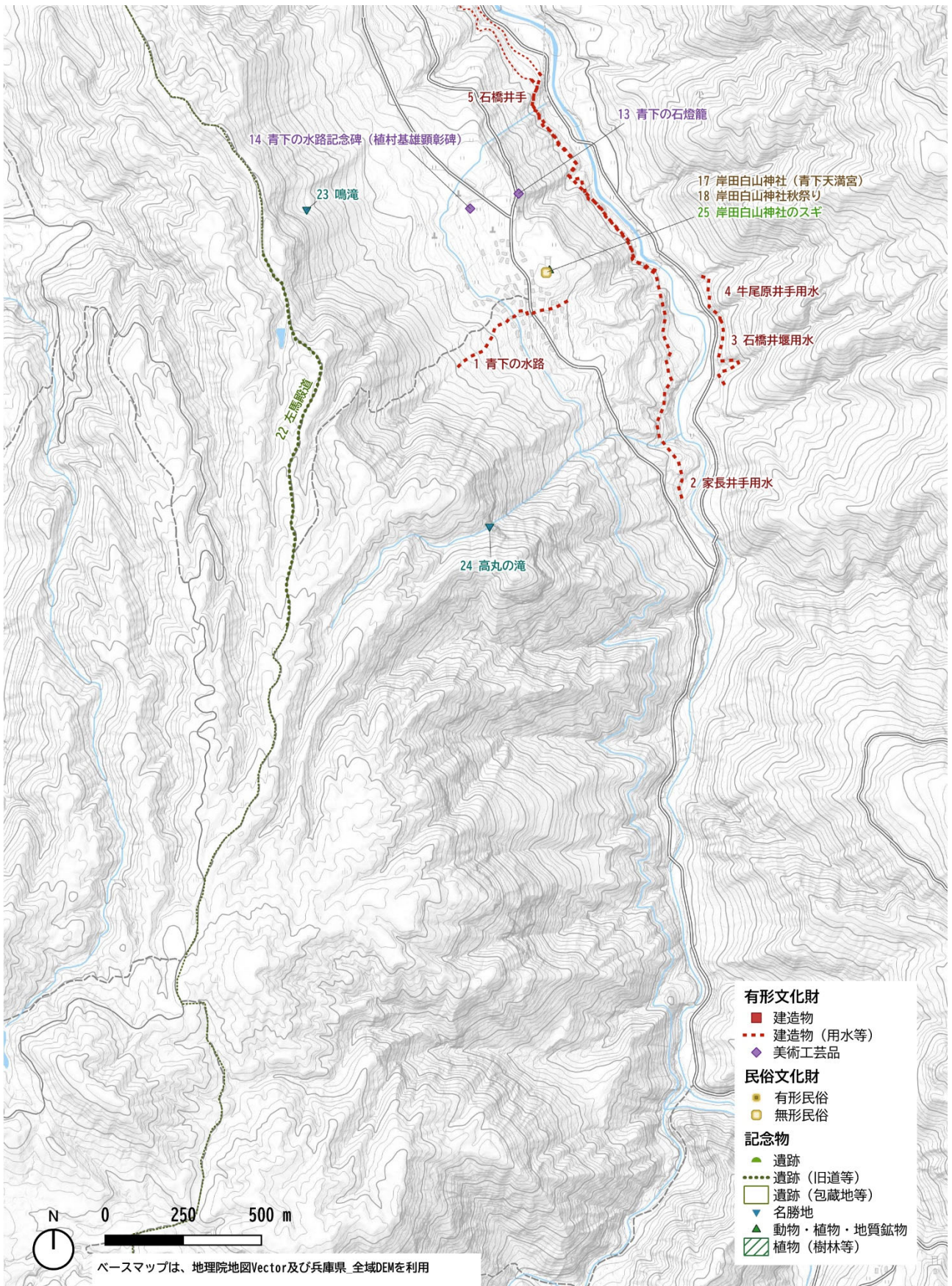
懸佛



岸田白山神社

※人口・世帯数は住民基本台帳(令和5年4月現在)による。

文化財の分布



※所在地の掲載可能なものに限る

6-13 青下

文化財の一覧

■ 有形文化財／建造物

分類	番号	名称	概要
工作物・ その他の 建造物	1	青下の水路	標高約400mにある青下は、古くから開田が容易な平坦地に畑地が営まれ、岸田川本流から三倉谷川を高樋で渡し、谷々の水を集めて灌漑する延長約4kmの青下用水が築かれていた。しかし、水量が乏しく新田開発の妨げになっていた。明治元年(1868)、植村四良右衛門(基雄)が久美浜県に畑直り新田の許可をうけ、開田を推進した。開田は、明治元年(1868)冬より着工し、この新田開発に伴って、明治3年(1870)に青下の水路が完成した。その後、明治29年(1896)には三倉谷川引水工事が完成し、大正7年(1918)、この水路の急流を利用した小規模の発電施設「岸田川発電所」が作られ、大正9年(1920)より発電用水路に併用されている。また、明治32年(1899)には植村基雄顕彰碑が建立された。
	2	家長井手用水	近世中期に築造された水路。水路延長6,000m、灌漑面積14,000ha。取入口は岸田砂田、排水口は岸田川。
	3	石橋井堰用水	近世初期に築造された水路。水路延長3,000m、灌漑面積50,000ha。取入口は岸田肘田3088。
	4	牛尾原井手用水	近世初期に築造された水路。水路延長600m、灌漑面積1.17ha。取入口は岸田ゴーク803、排水口は岸田川。
	5	石橋井手	海拔270mの中腹段丘にある石橋の水田を灌漑するための岸田川本流からの井手。山ひだに従って屈折しながら伸びる。水路延長は3.9km。室町時代に八田谷の第一の名主馬場氏の関連が想定されている。

■ 有形文化財／美術工芸品

分類	番号	名称	概要
彫刻	6	青下の六地藏	180×110cm。村の入口から山側に入り、田んぼ付近の見晴らしの良い所に、石燈籠とともにある。
	7	青下の阿弥陀如来像	木像の阿弥陀如来立像。他4つの木像とともに安置される。
	8	青下の木像(1)	阿弥陀如来立像等の木像とともに安置される。
	9	青下の木像(2)	阿弥陀如来立像等の木像とともに安置される。
	10	青下の木像(3)	阿弥陀如来立像等の木像とともに安置される。
	11	青下の木像(4)	阿弥陀如来立像等の木像とともに安置される。
工芸品	12	懸佛	内側の約14cmの薬師如来懸佛と外側23.5cmの懸佛、2躰が重なり合って形成されているが、元は別々のものである。材質は銅板のタタキ出で、台座には金メッキが施されている。内側の懸佛は薬師如来の穏やかな表情や体部の表現から鎌倉時代のものである。外側の懸佛は天蓋(てんがい)・獅嚙(しがみ)の形式から南北朝時代のもと考えられている。 町指定文化財
	13	青下の石燈籠	村の入口から山側に入り、田んぼ付近の見晴らしの良い所にある。六地藏の左に位置する。
	14	青下の水路記念碑 (植村基雄顕彰碑)	村の入口に位置する。水路建設にかかわった人々を称える記念碑で、明治32年(1899)、植村四良右衛門、世話人の他、36名で建てたもの。
古文書・ 歴史資料・ 考古資料	15	青下天満宮奉獻四季発句	弘化3年(1846)に池水楼・龍甫が皇都の自籟の撰を受けて青下天満宮に献納したもの。

■ 無形文化財

分類	番号	名称	概要
その他の 無形文化財	16	ワサビの栽培	概要不明

■ 民俗文化財／有形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
信仰の場	17	岸田白山神社 (青下天満宮)	天満宮は、学びの神として、菅原道真を祀る。青下の植村三郎左衛門が京都北野天神を勧請して祀ったものである。かつては、村の入口にある天神山の上に祀られていた。近代社格は無格社。白山神社の境内からは仏ノ尾が望める。

■ 民俗文化財／無形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
年中行事・民俗芸能	18	岸田白山神社秋祭り	9月18・19日に行われる。
民間説話・俗信	19	青下に伝わる話	※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p80参照
	20	たんぬし（田螺）と百姓	※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p82参照
	21	猿とおじいさん	※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p92参照

■ 記念物／遺跡

分類	番号	名称	概要
街道・古道等	22	左馬殿道	江戸時代の初め、若桜（鳥取県）と二方（新温泉町）を支配していた山崎氏が往来し、木地師との関係も考えられる道。

■ 記念物／名勝地

分類	番号	名称	概要
河川・滝・溪谷・湖沼	23	鳴滝	春の雪解け水が流れる時にしか見られないという。
	24	高丸の滝	概要不明

■ 記念物／動物・植物・地質鉱物

分類	番号	名称	概要
植物	25	岸田白山神社のスギ	概要不明

■ 文化的景観

分類	番号	名称	概要
生活・生業・風土により形成された景観地	26	青下の棚田	山村とは思えないほど広大な棚田が、見事な石垣群で構成されて広がる。これは、明治初期に10町歩におよび新田開発のために造られた水路（約4km先の岸田川上流を水源とする）を棚田の上に通し、そこから水を引き入れて稲を育てることによって作り出されている。